

SDGs

SDGsの取組事例

01 会社概要

会社名：平岩建設株式会社(ヒライワグループ)

会社所在地：埼玉県所沢市

従業員数：161人(男性：136人、女性25人)

資本金：20,638万円

事業内容：総合建設業(建築一式工事・土木一式工事)
専門工事業(とび・土工)、リニューアル工事業

SDGs宣言年月：2020年

SDGsの公開情報：<https://www.hiraiwa.co.jp/company/sdgs/>

SDGsのメインターゲット：

■	ゴール③	・人間ドックの受診年齢を35歳に引き下げ ・ストレスチェックや相談窓口の設置
■	ゴール⑧	・建設業の人手不足解消のため4週8休の整備 ・BIM、CIMやICTを用いた業務改革
■	ゴール⑪	・国や県、市と災害協定を結び、自然災害時の復旧 ・会社や作業所周りの清掃・美化活動の実施



災害協定による除雪作業



彩の国ロードサポート



02 SDGsの取組の経緯と現状

取組の経緯

会社員である前に地球に住む一人の人間として限られた地球資源の中で生活しているという認識が大事だと考える会社方針のもと、SDGsの勉強会・周知活動などを経て取り組みを行っています。

建設業の一企業としても、SDGsへの取組に対し顧客はもとより会社をとりまくステークホルダーからの共感を得て、選ばれる企業となる為には必須と捉えると共に、技術者や若手職員の人手不足、厳しい労働環境による離職者の増加、現役職員の不調など様々な人材への課題解決を考えておりました。そこで、DX化が進んでいく建設業のシステムやサービスをいち早く有効活用していき、従業員・顧客・環境へ利益を還元できるようにグループ一丸となって取り組みを進めています。

取組の現状

ゴール③ 長時間労働や技術職ならではの替えの利かない人員不足、業界全体の高齢化といった、建設業の厳しい労働環境が問題で心身に不調を来たしてしまっていました。そういった問題が積み重なり、離職率の増加にも繋がっています。

そこで、働きざかり世代の健康維持のため40歳からだった人間ドックの受診年齢を35歳からに引き下げました。また、社員から業務改革や会社に対しての意見を発言しやすくなるように、自らが抱える問題や不調が重症化する前に相談できる第三者のカウンセリング窓口を設置しました。



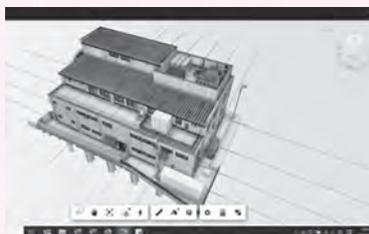
ゴール⑧ 前項の対策等を含め、会社全体の働き方改革に乗り出し、業務効率化・業務時間の適正化を図るため、様々な建設DX推進を行っています。

BIM、CIMの導入、土木工事部では3Dスキャナーやドローンを使用した点群データ収集による精巧なモデルの作成、ICT建機を利用した施工を行い、人手不足の解消に向けた、施工日数の短縮に徐々に効果が出ています。

また、新規学卒者の建設業への就職率が低下していることから、施工管理の魅力を知ってもらうべく、インターンシップの積極的な受け入れを行っています。これにより、業界全体が活気ある若者であふれる業界にしたいと考えています。



ICT建機による施工



BIM/CIMの導入



ゴール⑪ 近年甚大化している自然災害に対して、国や地方自治体などと災害協定を締結し、災害発生などの緊急時には協定に基づく迅速な対応を行います。また、地域への社会貢献として本社周辺・各地の作業所周辺の清掃美化活動・ごみ拾い、草刈りなどの活動を全社員で取り組んでいます。



作業所周辺 清掃活動



河川の護岸復旧工事

03 SDGsの取組の意義・効果・変化

意義、効果、変化

SDGsの取組を行うようになってから、職場の雰囲気が柔らかくなった気がします。

以前は不満や疑問点を言える機会が少なく、声を届けることが難しい雰囲気でしたが、少しずつですが、社員の声が届くようになりました。

また、女性社員数が増加する中で産休育休取得後の復帰事例も増えました。育休に関しては、希望する対象男性社員も取得する事が出来ています。

土木工事部においては、若手社員は全員ドローンの免許を取得必須とする事で建設DXに積極的に取り組む体制が取られています。

現在は、社員から今後のSDGsに関連する活動企画を募集したり、社員満足度アンケートを通して、社内からSDGsの目標達成を目指すと同時に社員の意識を高める活動を行っています。

04 SDGs推進担当者の声

SDGs担当者 SDGs部会 市川 智子(作業所支援室)

コメント

まず、SDGsとは何か。という部分になかなか理解が及ばない社員も沢山いて、自分もSDGs部会に入るまで、明確に考えることはありませんでした。

ですが、知る機会が増えると案外日常の業務の中でも関連することがあり、考え方ひとつでほぼすべての事に繋がるSDGsは奥が深いと思っています。

個人的には、カウンセリング窓口の設置はとてもありがたかったです。些細な違和感も自分だけで抱え込んでいるとよくない結果になってしまうので、定期的に話せる場というのは必要だと思いました。



05 今後について

SDGs部会という推進活動を行う組織が中心となり、社内全体に少しずつSDGsの認識が広がってきた段階だと思います。今後は取組企画の募集の中から、選ばれた企画を実践していくことで、社員一丸となってSDGsに取り組んでいる実感を持ちつつ、利益に還元する事で持続できる取り組みを増やしていけたらと考えています。

